

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	・全職員で校長のグランドデザインの共通理解を図り、その達成に向けて教育活動を推進することができた。また、児童も東部小3つのスローガン達成に向けて学習に取り組むことができたため、すべての項目で「十分達成」という成果が出た。 ・少人数・複式授業においてＩＣＴ機器を効果的に活用することができたため、児童の主体的な学びに繋げることができた。来年度も複式授業においては「わたり」「ずらし」を組み合わせた学習過程・学習指導法の工夫を継続していく。 ・人権教室（月1回）の充実を図ったり地域行事と連携した教育を推進したりしたことで、児童の豊かな心を育むことができている。今後も、児童が自己肯定感を高め、夢や目標を持って様々な事に挑戦できるような学習環境を整備していきたい。 ・学校行事の内容等について見直しをしたことで、職員一人あたりの時間外勤務時間が昨年度より減少し、教師が児童と向き合う時間の確保ができた。来年度も小さな業務改善を積み重ねながら働き方改革を進めていきたい。 ・令和6年度は山村留学生を迎えることはできなかったが、学校・保護者・地域が一体となり持続可能な取組をすることができた。山村留学においては課題もあるので、今後も地域、保護者、学校で取組の継続・改善の議論を重ねる。
2 学校教育目標	郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成 ～進んで学習・心と体をきたえて何事にもチャレンジ・自分も友だちも大切に～

3 本年度の重点目標	①自分の目標に向け、自分の考えを進んで発信し、主体的に学習する児童の育成 ②生命や健康を大切にし、何事にも前向きに挑戦しながら、心身共にたくましく成長する児童の育成 ③自他や郷土のよさを感じ、相手を思いやり、他者と認め合える児童の育成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価					主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○少人数授業の特性を生かした学習指導法の工夫	○「少人数授業で、自分のめあてをもって進んで学習に取り組むことができてい る。」と回答した児童82%(14名)以上	・少人数授業の特性を生かした学習指導 法の工夫 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体 的な充実 ・主体的な学びにつなげるICT機器の効 果的な活用	・		・		・	研究主任 研究副主任	
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重す る心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	◎「いつでも・どこでも・だれとでも『み んなが』を考えた行動ができた」と回答した 児童82%(14名)以上	・年間9回の人権学習の充実を図る。 ・人権学習において「SOSの出し方教育」の 実践を取り入れる。	・		・		・	人権・同和教育学習担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向け た取組の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相 談できている」と回答した児童82%(14 名)以上	・児童と学級担任との「おはなしタイム」を確 保する等、児童が何でも話せる学級経営の 充実を図る。 ・スクールカウンセラーを中心とした全員の カウンセリングと心の授業を行う等、教育相 談体制の充実を図る。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速か つ組織的対応の徹底を図る。	・		・		・	教育相談担当	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その 実現に向けて意欲的に取り組もうとする ための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれ ていると思う」と回答した児童82%(14名)以 上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」につい て肯定的な回答をした児童82%(14名)以 上 ○佐賀や富士町が好きだと回答する児童8 2%(14名)以上	・学校行事や学級経営の中で、一人一人に 出番・役割を与えて承認し、自己肯定感(有 用感)を高める。 ・授業や学校行事等を通して、夢や目標に ついて自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・郷土のよさを実感させる豊かな体験活動の 充実を図る。	・		・		・	特別活動担当	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時 間が1週間で420分以上の児童60% (11名)以上	・全校剣道を通して、自分の体力づくりに関 心を持たせ、基本的生活習慣の大切さを学 ばせるとともに、礼節を重んじる態度を身に 付けさせる。 ・運動をしやすい環境を整える(昼休みに体 育館を開放する等)。	・		・		・	体育主任	
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時 間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等 時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当 たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○時間外勤務が月平均30時間以内の職員 が90%(8人中7人)以上 ○各種行事や運営のあり方、育友会活動と の連携のあり方について見直しを行う。	・業務改善を推進し、職員研修を計画的・効 率的に実施する等、年次休暇を取得しやす い環境を整える。 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の 場を年間2回設定する。 ・地域行事(勤務時間外)への職員の参加等 については、管理職から保護者・地域の方 への理解を呼び掛ける。	・		・		・	教頭 県費事務職員	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性 と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上 したと回答した教員80%(6人中5名)以 上	・特別支援教育に関する研修会を年間2回 実施する。 ・教育相談協議会や支援会議等を開催し、 関係者間での情報共有を図る。	・		・		・	教頭 特別支援教育担当	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特色ある学校作りの推 進	○保護者・地域と協働した持続可能な取 組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取 組として改善が進んでいる」と回答した 保護者90%以上	・年7回の山村留学実行委員会(地域、保護 者、学校)で、山村留学のあり方について議 論を重ね、家族留学制度の推進や里親の発 掘等に取り組む、持続可能な取組となるよう に改善を推進する。 ・学校からの広報や連絡を幅広く行い、地域 人材を確保し活用することで、教育活動の 質を高める。	・		・		・	教頭 教務	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	--